



令和4年度市民まちづくり提案事業【協働事業部門】 事業実績

事業者	団体名	特定非営利活動法人ふふや	代表	代表理事 竹俣 智生
事業内容	助成事業名	施設事情調査と環境整備によるライフサイクルコスト削減対策の検証事業		
	事業目的	<p>子どもたちの利用する施設の実態を調査し、それぞれに合う断熱・省エネ対策を検討し、実証実験を行うことで、施工に対する費用や時間などの予測、光熱費の削減効果の確認を行い、今後の環境整備の参考とする。</p> <p>また、その取組の様子や結果を公表し、一緒に体験できるような場をすることで、市民が脱炭素に関する情報に触れるきっかけを作る。</p>		
	事業の内容	<p>【施設調査準備】 8月 各児童クラブ施設の図面収集</p> <p>【施設調査(10箇所)】 8月31日 調査(こばと児童クラブ) 9月 7日 調査(あおぞら児童クラブ、あおぞら第二児童クラブ) 9月14日 調査(ぽっかぽか童クラブ、なかよし児童クラブ) 9月21日 調査(砂山第二児童クラブ、しいのみ児童クラブ) 9月28日 調査(やまびこ児童クラブ、どんぐり児童クラブ) 9月29日 調査(せんきょう児童クラブ) 9月1日～9月30日 調査報告書作成</p> <p>【実証実験(断熱ワークショップ及び室温計測)】 12月10日 断熱ワークショップ開催(せんきょう児童クラブ) 12月19・20日 室温計測</p> <p>【イベント啓発】 令和5年3月5日 トスク本店にてあそびイベントスペースに断熱窓のワークショップと脱炭素の取組状況の紹介ブースを設置し、事業の広報を実施。(来場者約200名)</p>		
	協働による効果	<p>市との協働事業ということで複数の児童クラブに協力が得られ、各施設の実態を調査することが出来たことは、今後の子どもたちの環境整備計画を作成する上で、とても参考になった。</p> <p>また、その調査をもとに、市と民間業者協力の上でワークショップを開催し、大人も子供も脱炭素の取組みにかかる学習と体験の場を設けることが出来た。</p> <p>さらに、これらの開催状況や検証結果の広報をあそびイベントと同時開催することにより、イベント参加者(主に親子)に、断熱窓のワークショップ状況の紹介や仕組みを体験してもらったことは、脱炭素の取組みの周知としても効果的であったと考えている。</p>		
	課題に対する効果	<p>公共施設(児童クラブ)の調査及び断熱窓の施工、室温測定と行い、その結果を親子が集まるイベントにて公開できたことで、少しずつでも周知が来ていると感じている。</p> <p>これらの断熱窓の施工及び検証は、強力な広告媒体を除くとすれば、様々な世代が集まる各種イベントで公開することで、啓発活動が推進されるものと考え。そのために、複数年度にわたる事業計画と予算の確保が必要。</p>		
費用	総事業費	609,203円	助成金額	600,000円
事業の様子	 			

令和4年度市民まちづくり提案事業【協働事業部門】 事業実績

事業者	団体名	鳥取商工会議所青年部	代表	会長 平田 祐輔
事業内容	助成事業名	シビックプライド 鳥取力を市民のちからで！「日本遺産・麒麟獅子」		
	事業目的	<p>日本遺産認定を生かした本事業を実施することにより、地域の活性化をめざしている。事業の目的・効果については、以下のとおり。</p> <p>(1)圏域外への情報発信により、鳥取市を訪れる観光客や、日本遺産を通じた他地域との交流人口が増加することで、人や物の往来の増加による地域の活性化につなげる。</p> <p>(2)市民への普及啓発により、麒麟獅子舞をはじめ、地域の宝である文化財や自然に対する関心喚起や認知度が向上することで、日本遺産を生かした活性化の取組の増加や保存継承に向けた機運の醸成につなげる。</p>		
	事業の内容	<p>◎日本遺産発信看板の作成 より多くの、かつ幅広い世代の市民に向けた普及啓発活動、ならびに市外から鳥取を訪れる観光客への情報発信に取り組むことで、「市民が誇りに思う鳥取市」の実現に向けたもの</p> <p>9月 6日 日本遺産プロジェクト発足 11月 1日 看板原案完成 11月20日 看板デザイン完成 1月24日 看板作成発注 2月 1日 看板完成 2月 2日 ビジネス交流会開催 2月 8日 2月例会開催 →各会員企業に日本遺産看板を公開。 看板設置の要請と日本遺産についての説明、今後の展望を説明。</p> <p>3月 5日 岩美道路開通イベント (鳥取県、山陰近畿自動車道開通イベント実行委員会主催) 3月12日 本通り商店街(パレットとっとり)日本遺産イベント開催</p>		
	事業の成果	<p>鳥取商工会議所青年部は、経営者としての行動力と幅広いネットワークを持った200名近くの会員が在籍している。一方、行政はまちづくりを進めるうえでの知識、情報、予算、PR手段、信頼性などを持っている。この2者が協働し、お互いの持つ長所を生かした取組を展開したことにより、事業がより円滑に進むとともに、より事業効果を高めることができた。</p> <p>課題としては、予算(設置費用)、日程共有(YEG事業、市の事業)があげられる。</p>		
	今後の活動の展望	<p>鳥取商工会議所青年部(経営者)としての行動力と幅広いネットワークを持った会員が在籍していることにより多くの発信活動が可能になる。</p> <p>しかし、市と民間企業との共同事業は現状活発に行われていないのが現状。この事業をきっかけにより多くの共同事業を立案、実行に移していくことが必要だと考えている。</p>		
費用	総事業費	440,000円	助成金額	300,000円
事業の様子				